## 海外の<br /> ニュース

## アメリカにおけるポインセチアコナジラミの発生状況

アメリカ合衆国のカリフォルニア州南部サンディ エゴ近くのインペリアルバレーで発生しているポ インセチアコナジラミの被害状況などについて紹 介する。

カリフォルニア州南部は、アメリカ合衆国の冬

野菜の主要産地で、多くの野 菜が大規模に栽培されている。 この野菜栽培地帯の一角にあ るインペリアルバレーでは、 1991年夏にポインセチアコナ ジラミが侵入して以来、野菜 生産者は本虫による被害に悩 まされている。

本虫の発生量は非常に多く、 この成虫が飛翔する様子は、 まるで雲か吹雪のようである。 ほ場で作業する人は、このコ ナジラミを吸い込まないよう に、マスクを着用しなければ ならない有様であった。

これまで本虫による被害が 報告されている作物はメロン、 カボチャ、キュウリ、アルファ

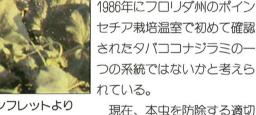
ルファ、ニンジン、レタス、カリフラワー、ブロッ コリー、ワタ、ブドウ、カンキツ類など多種類に わたっている。本虫は、これら作物の葉裏面に付 着し、□針で汁液を吸収する一方、糖液を分泌し 果実を汚したり、ウイルスを媒介することが知ら れている。また、本虫の繁殖力は非常に旺盛であ ることに加え、農薬に対する薬剤抵抗性が発達し ており、防除が困難なことから、現在では「スー パーバッグ」と呼ばれている。

このような「招かざる病害虫」のカリフォルニ ア州への侵入は本虫が初めてではないが、生産者 にとってポインセチアコナジラミは農作物を最も 荒廃させる大害虫と考えられている。

例えば、インペリアル郡のメロン栽培面積は 17,000エーカーから1,000エーカーに減少した。 専門家の試算によると、もし本中の繁殖を抑制で きなければ、その損害は春までに全米で2億ドル に達すると予想されている。

また、本虫は、主に風にのつ て移動し、一晩で6マイルを 飛翔することが可能であるこ とから、発生地域は拡大して いる。このため、同郡に隣接 したリバーサイド郡でもカン キツとブドウに500万ドルの 被害を与えており、西アリノブ ナでは、メロン栽培に大きな 被害がでている。

研究者によると、本種の正 確な分類はなされていないが、 1986年にフロリダ州のポイン セチア栽培温室で初めて確認 されたタバココナジラミの一 つの系統ではないかと考えら



カリフォルニア大学作成パンフレットより

な手段がないため、農家は被害作物をすべて除去 して本虫を防除しようとしている。一方、研究者 は本中に有効な天敵の探索を行っており、すでに ハウス室内実験で、テントウムシの一種が有効で あることが判明している。また、米国農務省では、 ポインセチアコナジラミの寄生蜂を見つけており、 1991年暮れから野外での試験が行われることになっ ている。

## (NEWSWEEK / NOVENBER 25,1991)

横浜植物防疫所 発 行 所 〒231 横浜市中区北仲通6-64 ☎(045)211-2299

発 行 人 上垣隆夫 編集責任者 釼 持 秀 禧

内村印刷株式会社